

子どものこころの発達と教育

～最新の研究成果に学ぶ～

発達と教育をめぐる行われてきた、グローバルCOEの2拠点の研究成果を、一般の方にもわかりやすくお話しします。また、研究成果をふまえて、子育て、学校教育などの現代の問題について討議し、参加者の皆さまと一緒に考えていきます。

日時: **2010年1月9日(土)** 13:00~17:00
 場所: **慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎519教室**

I: ご挨拶

グローバルCOEの研究成果の社会への発信

渡辺茂 (慶應義塾大学文学部教授、「論理と感性の先端的教育研究拠点」拠点リーダー)

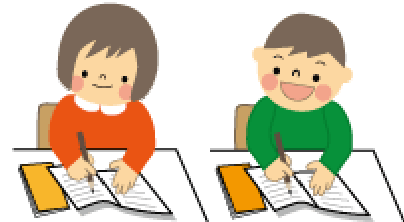
子安増生 (京都大学大学院教育学研究科教授、「心が活きる教育のための国際的拠点」拠点リーダー)

II: 講演

司会者: 山本淳一 (慶應義塾大学文学部教授)

指定討論者: 伊藤美奈子 (慶應義塾大学教職課程センター教授)

入場無料
 参加申込不要
 会場出入自由



© WANPUG

ヒトらしい心とは 心の発達と教育の進化的基盤

明和政子 准教授
 (京都大学大学院教育学研究科)

ヒトの営みを進化という時間の流れの中で捉えてみると、「ヒトらしい心」の輪郭がみえてくる。ヒトとヒトにもっとも近縁なチンパンジーの赤ちゃんの心の発達を比較してみると、生後しばらくは共通する部分が多いが、その後の道すじはそれぞれの種特有の環境に適応したものと方向づけられていく。では、ヒトらしい心を発達させるヒト特有の環境とは何だろうか。キーワードは、「共感」である。

赤ちゃんの脳を見る コミュニケーション能力の育ち

皆川泰代 特別研究准教授
 (慶應義塾大学大学院社会学研究科)

脳画像技術の目覚ましい進展によって、安全に赤ちゃんの脳機能を調べることができるようになった。これにより近年赤ちゃんの脳機能についての発見が相次いでいるが、ここでは特に赤ちゃんのこころの聞き取りや情動的側面についての発達と脳の働きについての研究を紹介しつつ、赤ちゃんの秘められた能力を明らかにする。

ふたごから見るヒトのこころ 社会性と認知の発達

安藤寿康 教授
 (慶應義塾大学文学部)

そっくりなようでどこがちがう「ふたご」は、ヒトのこころについていろいろなことを教えてくれる。ふたりが「仲がよい」とはどのようなことか。ことばや認知や心の理論の発達に遺伝と環境はどのように関わっているのか。150組のふたごの3歳半と5歳のときの調査から、ヒトの社会性と認知(=感性と論理)の発達の諸相を明らかにする。

学びを評価する パフォーマンス評価の試み

松下佳代 教授
 (京都大学大学院教育学研究科)

私たちは学びそのものを見ることはできない。ある具体的な文脈の中でおこなわれる行為の変化を通して、その背後にある力や関係性の変化を学びとしてとらえるのである。したがって、学びの評価には可視化と解釈というプロセスが含まれることになる。この報告では、パフォーマンス評価について、小学校6年生を対象とした調査をもとに紹介する。

III: 全体討議 司会: 山本淳一 討論者: 明和政子、皆川泰代、安藤寿康、松下佳代、伊藤美奈子

お問合せ先: 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」事務局
<http://www.carls.keio.ac.jp/> E-Mail : keiocarls@info.keio.ac.jp